# 新たな社会的ニーズに対応した 学生支援プログラム ( 学生支援 GP) の紹介

## 心と体の育成による成長支援プログラム
## －社会に幸せをもたらす生活の知恵を持った学生の育成－

保健管理センター　　吉川　弘明

### はじめに

皆さん，こんにちは．保健管理センターです．

保健管理センターは，皆さんの健康を心と体の両面から支える活動をしています．保健管理センターの行動指針を，次に示します．

1. 自分に対しても社会に対しても，幸せをもたらすような人材の育成を目指す．
2. 卒業生には，長い人生を無事に送っていける生活の知恵を身に付けさせる．
3. 予防可能な疾患や状態に対して，積極的に介入する．
   1) 生活習慣病や頭痛などのフィジカルな問題
   2) うつや不登校などのメンタルな問題
   3) 感染症などの環境要因による問題

現在，メタボリックシンドロームやうつ病は大きな社会問題です．しかし，既に自分のライフスタイルが定まってしまっている 40 歳台以上の人たちに指導をするのは並大抵の苦労ではありません．「予防に勝る治療はない」と言われますが，体の病気も心の病気も，予防できるものが大変多いのです．私たちは，大学職員の健康管理も担当していますが，健診結果を見るたびに残念で仕方がありません．保健管理センターには医師（学校医，産業医）と臨床心理士，保健師，看護師などのメディカルスタッフがいます．私たちは，日常業務として健康診断やその後の指導，診察，カウンセリング，健康相談などをしていますが，その他に健康教育，研究活動を行っています．この３つを互いに，相乗的に発展させることが私たちの活動スタイルです．このような考え方に基づいて，私たちは体の病気，心の病気に取り組んできました．また，感染症対策にも力を入れ，注目を浴びるようになりましたが，それは，活動の一部であると思っています．

さて，本年度，文部科学省は「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援 GP）」を公募しました．金沢大学では，保健管理センターを中心に独自のプログラムを提案し，採択されました．今日は，この学生支援 GP のご紹介を中心にお話します．

### 1. 学生支援 GP の目的

その目的は，次のとおりです．「学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため，各大学・短期大学・高等専門学校における，入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち，学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラムを選定し，広く社会に情報提供するとともに，財政支援を行うことで，各大学等における学生支援機能の充実を図る．」プログラムの基本的な考えを図 1 に示します．このような，プログラムが制定された理由は，1．多様な学生の存在（資質，能力，知識の異なる学生，留学生，障害のある学生など），2．様々な社会的課題（少子化，ニート・フリーター，再チャレンジなど），これらに対する有効な対応方法が求められているからです．そして，期待される効果として，1) 学生が学習に集中できる環境作り，2) 学生生活の様々な悩みの解決，3) 学生の人間的な成長の促進，4) 多様な学生の就学機会の確保，5) 様々な社会的課題に対応，以上があげられています．私たちを取り巻く社会はグローバル化と多様化という，ある意味では相反する方向へ急速に動いています．そこでは，誰も明確な指針を提示できないということがあるのだと思います．もちろん，これらの問題は我が国に限ったものではなく，原因も我が国だけに帰せられるものではありません．したがって，対応方法も多様で，独自のものがあっていいわけです．



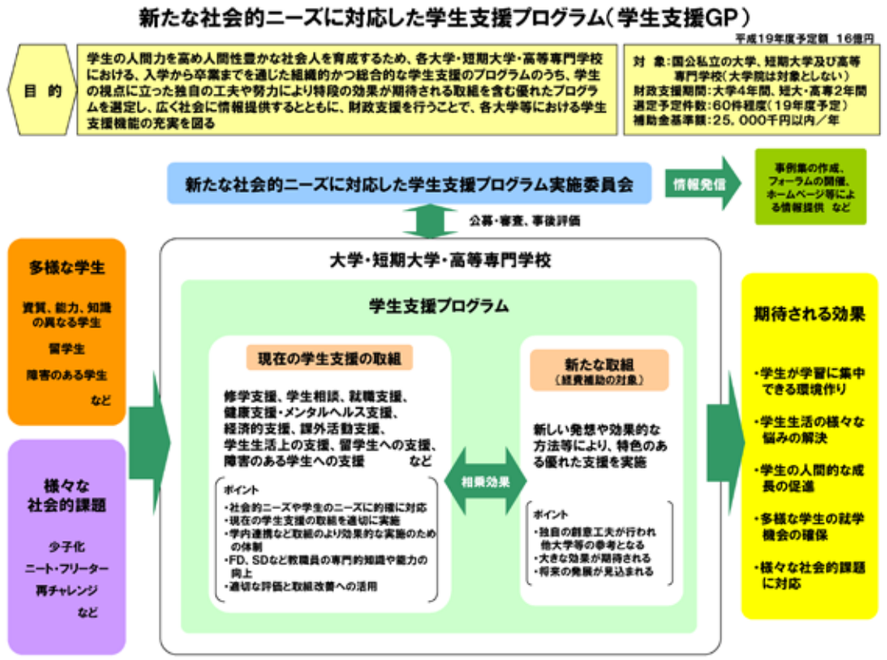


図１　新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援 GP）

出典：http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/gakusei/07041600.pdf

### 2. 金沢大学の学生支援 GP

私たちの取組の表題は，「心と体の育成による成長支援プログラム　－社会に幸せをもたらす生活の知恵を持った学生の育成－」です．このプログラムは，金沢大学の学校医（産業医）が，臨床心理士のサポートを得て，心と体の両面から学生支援を立案したことがポイントです．また，学校医も，臨床心理士も教員であるので，教育活動，研究活動に関わっています．さらに，学校医は医学部附属病院で診療にあたる専門医であり，産業医でもあること，臨床心理士も多くのカウンセリング業務により学生の悩みをよく知っていたことが，入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援プログラムを立案できた要因と思います．入学時からの健康教育を基盤におき，人と人との関わりを通して，自己管理能力，コミュニケーション能力，他者援助精神を促進し，卒業後には社会に幸せをもたらす生活の知恵を身に付けた学生を育成することを目標としています．では，プログラムを車に見立てて，順に説明します．

### 3. プログラムを構成するパーツたち

図２を見てください．このプログラム全体は，シャトルバスとコミュニケーションプレイスという車輪に支えられています．そして，車のフレームにあたるのが，導入科目である大学社会生活論の一つである「健康論」講義です．そして，その上には，様々な魅力的な積み荷が乗っています．それらの積み荷（プログラム）から，自己管理能力，コミュニケーション能力，他者援助精神が育成されます．私たちは，どんなに個々の人が精神的に経済的に高いレベルを極めても，他者との関わりが無ければ生きてはいけないのです．そして，この三つの能力を身につけて，広い世界に出ていくのが皆さんたち金大生，すなわち「自分に対しても社会に対しても幸せをもたらす生活の知恵を身に付けた学生」です．

もちろん，金沢大学では学生支援に関する取組が，なされていなかったわけではありません．冊子「きいつけまっし」に代表されるようなきめ細かな心配りがありました．私たちは，ここに医師，臨床心理士の視点を導入したわけです．

### 1）車輪としての場の提供

プログラムの土台となるのは環境づくりです．車輪として，シャトルバスの運行とコミュニケーション・プレイスの設置を計画しています．金沢大学は８学部９研究科の総合大学で，多様な学生がいますが，約 4km 隔てた２つのキャンパスに分かれて学んでいます．シャトルバスで２つのキャンパスをつなぎ，学生の交流を促進することで，学生が視野を広げ，活動の場を広げることにつながります．もちろん，学生の交流だけでなく，学生と教員，教員同士の交流，の交流が活発になることを願っています．

コミュニケーション・プレイスとは，居心地の良い学生の居場所となるところです．居場所が見つからない学生にとって，広いキャンパスは孤独を感じさせます．そこで，キャンパス内に快適な居場所を設置します．そこには，コミュニケーションを促すファシリテーターを巡回させます．また，特別な支援の必要な学生，例えば留学生，寮生などに対する配慮も必要だと思っています．

### 2）フレームとしての「健康論」

車輪の上に乗るのフレームとなるのが，健康教育です．これは，金沢大学の特徴である「大学・社会生活論」の一コマである「健康論」が役割を担います．１年生の前期に全学部で行っている点が優れた点といえますが，さらに教育内容の充実を図ります．来年度からは独自の教科書が出来ます．また，繰り返し学習できる e-Learning 教材も提供します．健康診断を「健康論」の実習として位置づけ，「大学・社会生活論」の単位取得に健康診断受診を必須とします．健康診断を形式的な行事として済ませず，自分を見つめる機会にすることが目的です．新入生の皆さんにとっては，保健管理センターの医師や臨床心理士，保健師，看護師などのスタッフに初めて会うのが，この健康診断です．きっと，皆さんの健康状態や心配なことを聞いてくれることでしょう．遠慮はいりません．なんでも相談してください．また，夏季，冬季休業期間中には「健康論集中講義」を開きます．集中講義では２日間で講義と実習の両方を行います．この講義を受けることで，単位ももらえます．

### 3）魅力的な積み荷としてのプログラム群

健康への関心が高まったところで，多様な学生の関心にこたえる健康教育プログラムを複数用意します．「健康診断」，「食育プログラム」，「運動プログラム」，「自分を見つめるプログラム」，「アカンサス・セミナー」，「救急講習会」，「アカンサス・インターシップ」の７つです．「健康診断」は自分の心身の状態をチェックする重要な機会ですので，受診結果の個別の説明を受けて健康に向かって行動変容するきっかけにします．健康的なライフスタイルを身に付けるための，良い機会です．「食育プログラム」と「運動プログラム」は生活習慣病予防のための実習型プログラムです．「自分を見つめるプログラム」は保健管理センタースタッフがファシリテーターとなるグループワークです．自分を見つめるだけでなく，他者への関心，他者との関わり，広い視野をもつことを促進するために，心理検査や対人関係トレーニングをします．「アカンサス・セミナー」は「健康論」のような授業とは違い，自由な雰囲気の中で，講師を囲んで，軽食を摂りながらコミュニケートする催しです．安全衛生教育もこのセミナーでの実施を予定しています．「救急講習会」は，自動体外式徐細動器 (AED) の使用方法，熱中症対策，救急蘇生法などを実習します．「アカンサス・インターシップ」は，教育活動と課外活動を融合させた実践の場として学内で行うインターンシップです．金沢大学生活協同組合との協力により，実践的な活動の場を提供したいと思います．

以上の取組を通して，自己管理能力，コミュニケーション能力，他者援助精神をもった学生が育成されます．



## 4. 私たちの目指すところ

以上のプログラムは，学生相談や健康相談で語られる学生のニーズや，健康診断時の問診結果をもとに考えられたものです．新たな取組の独自性は，「少人数，予約制でファシリテーター（専門家）を介して双方向コミュニケーションを行う」という点です．人と人との関わりを通して，自己管理能力，コミュニケーション能力，他者援助精神が育成されることになるわけです（図２）．

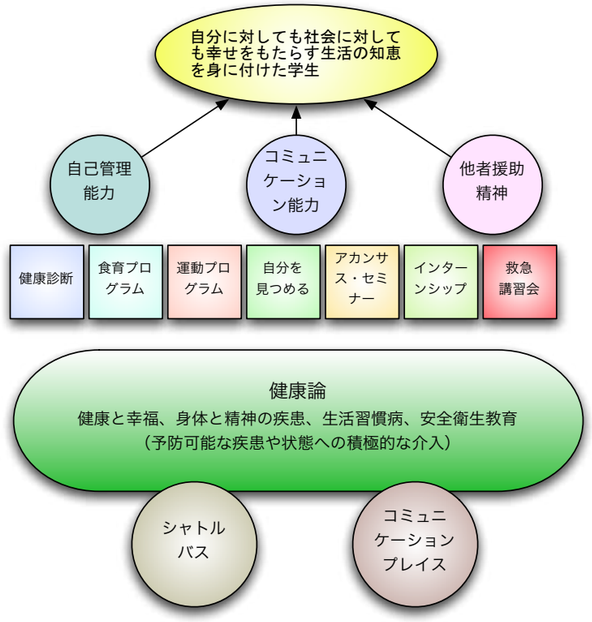

図２　プログラム概念図

このプログラムを成功に導くファクターとして，重要なものがあります．ひとつには，「金沢らしさ（伝統と新しさ）」を生かすことです．金沢には，匠の技，食の文化，息づく伝統工芸という世界に誇れる先人の資産があるとともに，最先端の研究機関，人材があります．是非，そのような場で活躍される方々の考えや人となりに触れる機会を設けたいと思います．さらに，学生の皆さんの意見が大切です．皆さんの希望があって，新しい取組が生まれます．どしどし要望を出してください．そして，全学的な組織的な取組が重要です．大学の部局にとどまらず，生協，図書館，就職支援室，各サークル等ともつながりを持って，計画を進めていきます．

## 5. 本プログラムにおける IT の役割

保健管理センターでは，これまでも積極的に IT を活用してきました．一つは，健康管理システムです．これは，健康診断の時に，皆さんのデータ入力を学生証による認証によって行っているのはご存知のとおりです．これにより，データは正確に早くサーバ内の健康管理システムに蓄積され，安全に管理されるようになりました．さらに，再検査等が必要な人たちの抽出も早くなりました．ホームページも，私たちの活動にはなくてはならないものです．様々な案内をいち早くお知らせするとともに，健康情報の提供をホームページやストリーミングムービーで提供しています．学生支援 GP の計画の中にも，IT 関連の項目が組み込まれています．一つは，ポートフォリオシステムと連携して，皆さんが自分のパソコンから健康診断の結果を見ることが出来るようになります．その中には，抗体検査の結果も含まれます．自分の健診結果を経年的に見て，気をつける項目が分かるとともに，必要な場合は印刷して病院で提示することが出来ます．また，健康教育教材の開発も進めていきたいと思っています．

### 最後に

私たちの学生支援 GP は健康という視点から，健康教育という手段を使って，皆さんの成長を促すものです．皆さんは，自分の将来につながる専門を大学在学中に学ぶわけですが，それに加えて，自己管理能力，コミュニケーション能力，他者援助精神を身に付けていってもらいたいと思っています．それは，皆さん自身にも，周りの人たちにも幸せをもたらすことでしょう．そんな，「金大ブランド」の人たちが，世の中で活躍することが私たちの願いです．